

支える人を支える 京都の福祉

府社協 HP 公式 X



2026
1
no.623

▼4ページ

京都府知事と社会福祉関係者との懇談会を開催

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



- 京都府社会福祉協議会会长 年頭挨拶
- 京都府知事 年頭挨拶
- 第13回きょうと地域福祉活動実践交流会
- ▼2ページ
- ▼6ページ

Y こんな嵐の歌からも、小さな希望
が明日への生きる力になることが伝
わってくるようになります。
Y 私たちは、困難な状況にある人々
の希望に寄り添い、誰もがささや
かでも希望をもつていていくこと
ができる社会をつくる役割を担つて
いきたいと思います。
Y みなさんの希望の光がやさしく輝
く一年になりますよう、お祈り申し
上げます。

走り出せ 走り出せ
明日を迎えて行こう (略)
どんなに小さなつぼみでも
一つだけの Happiness

Y 映画「ラーゲリより愛を込めて」
の中で、嵐メンバーの一宮和也さん
演じる主人公が、抑留生活に絶望す
る仲間を「何もなくとも、それでも、
そこには絶対、希望があるんです」
と励ます場面があります。これにつ
いて空閑浩人同志社大学教授は、「人
が生きるために、どんなに小さな
ことであっても『希望』が必要」と
述べておられます。

Y 今年5月、嵐が活動を終えます。
嵐の歌に思い出のある人も多いので
はないでしょうか。

もえくさ



「つながりをいかして、だれもが尊厳をもつていきることができる社会」の実現をめざして

社会福祉法人京都府社会福祉協議会

会長 小畠 英明



きています。

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、日頃から京都府社会福祉協議会の活動に対し、深い御理解と御支援を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、近年、国内においても自然災害が頻発する中、京都府内においては、市町村社会福祉協議会や関係機関、ボランティア団体が連携し、災害ボランティアセンターや避難所支援に取り組んでいます。

平時から研修・訓練、ネットワーク

づくりに継続的に取り組み、被災地に駆けつけるボランティア、地域で声をきめ細かな支援に取り組む福祉関係者など、支え合いの力が確実に広がっています。

未来に向けて輝き続ける 京都づくりに挑戦

京都府知事 西脇 隆俊



あけましておめでとうございます。府民の皆さんにおかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、「大阪・関西万博」の開催を通じて、多くの方に京都の伝統から革新までさまざまな魅力に触れていただきました。また同時に、文化庁の京都移転から3年目を迎えた、国と協力して新しい文化政策を京都から創り上げ、世界に向けて発信できたことにより、改めて、京都の文化力の奥深さを再認識する機会ともなりました。

美しい花を咲かせ続けるには、停滞することなく、変化し続けなければならぬ。これは、室町時代に能を大成した世阿弥が「風姿花伝」に残した後人への心得です。当時の大衆芸能であった猿楽を磨き上げ、日本が世界に誇れる芸術である能へと昇華させて

いたた世阿弥は、常に変化を恐れず進化していく努力の大切さを花に例えて説きました。千年の京都の歴史と文化も、そのときどきの先人たちが絶え間なく変化を繰り返して育てあげてきた、かけがえのない財産であり、国内外から多くの方が訪れる京都の魅力の源泉です。そして、時代の変化を柔軟に受け容れ、常に技術の進歩を人々の幸せにしなやかに結び付ける文化と心根が、今も昔も京都でイノベーションを生み出し続ける原動力となっています。

本年は、こうした先人たちからの「贈りもの」を活かして、人と人との絆や京都府と府民の皆さまとの信頼関係を大切にしながら取り組んできた、京都府総合計画の最終年度を迎えます。全

ての営みの土台となる安心を確かなものとし、府民の皆さまが、未来を担う子どもたちをあたたかく育みながら、いさつといたします。

令和7年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

京都府社会福祉協議会会长賞が決定しました！

基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から人権啓発ポスターコンクールが実施されています。今年度は174校3,631点の応募があり、京都府社会福祉協議会会长表彰として、京都市立洛央小学校 城 大地さんの作品が選ばれました。作品は人権情報ポータルサイト「京都人権ナビ」(https://kyoto-jinken.net)でご覧になることができます。



特に、昨年の大分県大規模火災では、地元の社会福祉法人の職員が避難所までの移動支援に迅速に取り組まれたことで多くの方々の命を救ったとの報道がありました。こうした取り組みの背景には、平時から地域での支え合いによる安心して暮らせる地域づくりの実践があり、世代や立場を超えた交流の重要性がますます高まってきていると感じています。

私たちを取り巻く環境は、少子高齢化の一層の進行、単身世帯の増加、地域のつながりの希薄化など、複雑かつ複合的な課題を抱えています。また、困りごとを抱える方々を専門機関へつなぐ民生児童委員やボランティア活動者など地域福祉の支え手が減少していると感じています。

私たちを取り巻く環境は、少子高齢化の一層の進行、単身世帯の増加、地域のつながりの希薄化など、複雑かつ複合的な課題を抱えています。また、困りごとを抱える方々を専門機関へつなぐ民生児童委員やボランティア活動者など地域福祉の支え手が減少していると感じています。

私たちが生きる現代は、人口減少・少子高齢化に加え、気候変動やAIによる技術革新など、大きな変革期にあります。先行きを見通せない今こそ、京都の魅力を支える府民の皆さまや京都を訪れる多彩な人材と共に、先人から引き継いだ京都の魅力の源泉を磨き上げてまいります。そして、今年の干支「午」が象徴する、飛躍し、力強く前進する馬の如く、直面する課題を絶えず成長を続ける、輝き続ける京都を実現してまいりたいと考えております。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

こうした中、京都府社会福祉協議会としても支援を必要とする人を早期に発見し、孤立しない地域づくりを進めていくことが重要な使命であると、改めて強く感じております。

「つながりをいかして、だれもが尊厳をもつて生きることができる社会」をもつて生きることができる社会」をつくるという基本理念のもとに、こども食堂や子どもの居場所を支えるネットワークづくり、包括的支援体制の構築や身寄りのない高齢者等の生活課題に応える「総合的な地域福祉権利擁護」を実施していきます。

また、「温ったか京都・寄り添いワーカー」を中心とした生活困窮者支援、社会福祉法人が協力して社会的養護施設退所者を応援する「あす・いろプロジェクト」として、新しいことを始めるには最適の年と言われています。

皆様におかれまして、本年が素晴らしい一年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。

今年は、「丙午」の年に当たります。

「丙」は火の性質を持ち、陽のエネルギーを象徴し、「午」もまた火の性質に属するため、「丙午」は「火と火」が重なるため、非常にエネルギーの組み合わせのことです。つまり「情熱」「エネルギー」「行動力」「改革」がキーワードとして、新しいことを始めるには最適の年と言われています。

改善支援の取り組みなどを通して、誰一人取り残されず、尊厳や生きがいを感じ豊かに生きができる地域づくりをより進めています。

今年は、「丙午」の年に当たります。

改善支援の取り組みなどを通して、誰一人取り残されず、尊厳や生きがいを感じ豊かに生きができる地域づくりをより進めています。

今年は、「丙午」の年に当たります。

現場の声を伝える・生かす

京都府知事と社会福祉関係者との懇談会を開催

地域における社会福祉の課題や現場の声をお届けし、京都府の福祉や地域づくり政策に生かしていただきとともに、西脇隆俊京都府知事から京都府政の方針や福祉への思い等をお聞きする機会とするため、10月30日、京都府庁で京都府知事と府内の社会福祉関係者との懇談会を開催しました。



出席者一人づつにコメントする西脇隆俊京都府知事

社会福祉協議会関係者から

- ◆国では身寄りのない高齢者等への支援のあり方や成年後見制度の見直しが検討されており、新たな事業が創設される見込み。社協としても、地域福祉権利擁護事業とともに、法人後見活動の推進、死後の備えなど新たな支援づくりに努めたい。京都府には、身寄りのない方や意思決定支援を必要とする方への支援体制の構築をお願いしたい。
- ◆地域福祉権利擁護事業では、府内において、これまで3,000人以上の判断能力に不安がある方を支援してきた。身寄りのない高齢者への支援のため、専門員の配置増など体制強化への支援をお願いしたい。
- ◆社協は「特例貸付フォローアップ相談・支援事業」を活用し、生活相談会の開催や個別の訪問等による相談支援に力を注いできた。「温ったか京都・寄り添いワーカー」を配置し、これまでに増大をお願いしたい。

西脇京都府知事から

- 宅への優先入居や保育所の優先入所等、安心して子育てと就業の両立ができるよう、充実した支援をお願いしたい。
- ◆昨年8月より精神に障害のある方への医療費助成制度を実施されたが、精神障害者保健福祉手帳1級所持者のみという制限がある。2級、3級への対象の拡大をお願いしたい。
- ◆介護保険の見直しが検討されている。負担増になることから我々は反対の意見をもって活動している。京都府からも現行の負担率が継続されるよう働きかけをお願いしたい。また認知症の診断後、今後の生活に対する不安を抱えるケースが多い。京都府の高齢者健康福祉計画には認知症に関する医療と介護の情報を一体的に集約・発信することで、現場への周知をお願いしたい。
- ◆いのちの電話の相談件数は昨年1年間に17,907件であった。内容の多くは、50代、40代の就職氷河期世代。

- 代の就職難に起因した経済苦から心の病を訴える人が多い。今後も活動に対して引き続き支援をいただきたい。
- ◆買い物のキャッシュレス化など生活が一変し、高齢者にとっては住みにくい時代。引き続きシニア世代のより良い活動拠点づくりと健康、福祉について地域に根差した活動を続けていくことで、京都府には市町村との連携や人的支援、事務的な支援等お願いしたい。
- ◆身寄りのない高齢者への支援と社会福祉施設の生産性向上の支援については引き続き努力していく。

- ◆コロナ特例貸付を借りた世帯の多くは今も生活が厳しい。生活や就労等きめ細やかな支援に取り組んでいきたい。
- ◆民生児童委員活動費は、欠員分を現員でカバーしているという実態に合わせた配分とともに物価上昇分も考慮して交付してもらえるよう働きかけたい。民生児童委員の活動助成補助金があるので、ICT等新しいツールも活用し負担軽減を進めて欲しい。
- ◆公定価格で実施している介護などの報酬改定は国に要望していきたい。
- ◆地域医療介護総合確保基金は現在の仕組み上、分野を横断して使うのは難しい。また待遇改善の一元化は現場の

課題。欠員が生じないよう、PR活動と広報の予算確保をお願いしたい。また民生児童委員活動費は、欠員の分を定数で補助いただきたい。物価高騰の影響を受けて、ガソリン代や通信費等の負担は増加しており、民生児童委員経営努力による対応には限界がある。

京都府単費での支援と国への働きかけをお願いしたい。

福祉施設関係者から

- ◆社会福祉事業所は公定価格に基づく経営するために、価格軒嫁ができず経営努力による対応には限界がある。京都府単費での支援と国への働きかけをお願いしたい。
- ◆介護・障害・保育の分野ごとに待遇改善があり、該当分野の職員に分配することになっている。各分野で待遇に差があると法人の中での人事異動ができなくなってしまう。待遇改善の一元化を国へ要望いただきたい。
- ◆地域医療介護総合確保基金を障害や保育でも活用できるよう対象の拡大について検討いただきたい。

社会福祉団体関係者から

- ◆民生児童委員のなり手確保が大きな状況としては理解するが、簡単ではないと考えている。

- ◆障害のある方の親亡き後は深刻な問題。住み慣れたところで暮らしていくよう我々のできるところを考えたい。

- ◆平成30年度から英國をモデルにしたメリデン版訪問家族支援を実施している。障害者本人だけでなく支えている家族、両方に支援が必要。保健所の職員が支援技法を習得しながら家族会と協働してやっていきたい。

- ◆認知症と診断された直後から適切に医療・介護サービスにつなげるには関係者の連携が必要。認知症疾患医療センターもあるので、関係者の連携を進めたい。
- ◆いのちの電話の電話相談は重要だと考えている。京都府としても今後他の民間団体も含めて一緒に取り組んでいきたい。
- ◆世代間交流はどの世代にとっても効果があるので推奨したい。一方で高齢



西脇知事から一人ひとりの発言に対しても丁寧なコメントをいただきました。京都府社協では、今後とも社会福祉関係者の思いや現状を京都府と意見交換し、相互に理解を深め地域福祉の充実に反映していけるように取り組むことが重要だと考えています。今後とも皆さまのご支援ご協力を願っています。



府民交流フェス夕に 参加しました



11月3日の文化の日に、毎年恒例の「府民交流フェス」が京都府立植物園で開催されました。私たちは、「釣つて、遊んで、社協がぐっと近くなる」をコンセプトにブース出展し、当日はおおよそ420人の方々がお越しくださいました。

魚に見立てた京都の市町村社協マスクコットキャラクター、福祉マーク（ヘルプマークなど）、防災豆知識を学ぶことのできるイラストを放した釣り堀を設けました。子どもたちは「マークの意味をはじめて知った」「明日学校の先生に教えてあげる」と言いながらゲームを楽しんでくれました。社協や福祉を身近に感じてもらうことができました。また、きょうと介護・福祉ジョブネットと協働し、ブースを訪れた親御さん

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構設立20周年記念事業 「評価が社会へ信頼をつなぐ—京都の20年とこれからの10年」

京都府の「第三者評価事業」は、福祉・介護サービス事業所が外部機関の客観的な評価を受け、その結果を公表することで、サービスの質向上と当事者の事業所選択を支援してきました。機構発足20周年となる本年度は、これまでの歩みを振り返り、今後の発展を図るために記念事業を開催します。



日程 令和8年3月6日(金) 13:00 ~ 16:30

会場 ハートピア京都 大会議室・第5会議室
(地下鉄烏丸線「丸太町駅」5番出口直結)

参加費 無料

定員 80名(先着順)

対象 第三者評価に関心のある府民や学生の方
介護・福祉サービス事業所に従事されている方
第三者評価機関・評価調査者の方



京都府市町村社会福祉協議会連合会と共に、「第13回きょうと地域福祉活動実践交流会」を11月29日(土)に開催し、府内から約380人の地域福祉活動実践者が参加しました。本次交流会は、地域の福祉活動をさらに推進することを目的に毎年開催しています。今回は、乙訓地域の向日市社協・長岡京市社協・大山崎町社協が中心となって企画・運営しました。

交流会では初めに、一般社団法人 Wellbedesign の篠原辰二氏から「地域と紡ぐいのち輝く防災デザイン」、災害を乗り越える未来「」をテーマに、基調講演をいただきました。篠原氏は、「災害は日常の延長線上に起きる」とし、平時からの顔の見える関係構築が不可欠であると話されました。

またパネルパビリオンと銘打ち実施したポスターセッションでは、「地域用いた啓発活動や『災害弱者を出さない』取り組みを紹介。向日市からは、ケアマネジャーがモニタリング時に避難所の確認をする取り組みや、民生委員による防災ボトル配布によるつながりづくりが報告されました。長岡京市からは、キッズ社協FKSの小学生たちが能登半島の被災地のために、イベントでかき氷販売をした収益を募金した活動、中学生が市災害ボランティアセンターのボランティアバスに参加し、

福祉活動から広がる防災」をテーマに、府内全域からの活動紹介を展示し、日々の地域の取り組みを紹介し合いました。参加者からは、「他の地域の取り組みを知ることが活動の参考になつた」といった声がありました。

後半には、大山崎町、向日市、長岡市からそれぞれの地域課題に向き合う実践が発表され、大山崎町からは、



乙訓防災万博～いのち輝く防災デザイン～ を開催しました

第13回きょうと地域福祉活動実践交流会

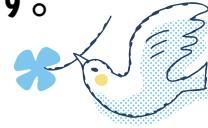
福井活動から広がる防災」をテーマに、府内全域からの活動紹介を展示し、日々の地域の取り組みを紹介し合いました。参加者からは、「他の地域の取り組みを知ることが活動の参考になつた」といった声がありました。

福井活動から広がる防災」をテーマに、府内全域からの活動紹介を展示し、日々の地域の取り組みを紹介し合いました。参加者からは、「他の地域の取り組みを知ることが活動の参考になつた」といった声がありました。

福井活動から広がる防災」をテーマに、府内全域からの活動紹介を展示し、日々の地域の取り組みを紹介し合いました。参加者からは、「他の地域の取り組みを知ることが活動の参考になつた」といった声がありました。

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

ご寄付・ご寄贈ありがとうございました。 ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。



寄付

令和7年7月1日『特定非営利活動法人京都DARC』様 10,000円

令和7年7月29日『京都トヨペット株式会社』様 5,181,632円

令和7年9月27日『未来に向けての森林づくりとこれから求められる木造建築の新たな可能性についてご来場者有志』様 28,000円

令和7年11月21日『株式会社村田製作所』様
(京都レディースオープン地域貢献賞) 600,000円

令和7年11月28日『一般財団法人近畿陸運協会』様 250,000円

令和7年12月8日『小畠英明』様 30,000円

令和7年12月9日『足立操』様 10,000円



寄贈

令和7年5月12日『京セラ株式会社』様 車いす30台

助成

令和7年11月28日『公益財団法人京遊連社会福祉基金』様 500,000円

研修課ではさまざまな研修を企画・実施中です。
令和7年度に実施予定の研修は
右記二次元コードよりご覧ください。

HP <https://www.kyoshakyo.or.jp/topics/news/13590>



現在、募集中の研修は
右記二次元コードよりご覧ください。

HP <https://www.kyoshakyo.or.jp/topics/boshyu>



●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<https://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協

検索→



本紙は、共同募金の
配分金によって
つくられています。

福祉事業を始めるなら 賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任保険制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせてご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。



詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRI** 株式会社エスアールエム

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ <https://srm.moushikomi.jp/>

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社
この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

仮1-10-1111

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。